

本日、1学期の終業式を迎えることができました。皆さん一人ひとりは、悩んだり苦しんだり、いろいろな思いを持ちながら学校生活を送っていることと思いますが、何はともあれ、1学期を終えられることを、生徒の皆さん、保護者や地域の方々、そして教職員の皆さんに心から感謝します。本当にありがとうございます。

1学期の南高を振り返ってみますと、

県総体で、団体種目で優勝3つ、準優勝2つ、3位1つなど、多くの部が上位進出を果たしました。四国大会においても、登山男女が優勝、ホッケーと弓道男子団体が準優勝、ハンドボール女子がベスト8など素晴らしい活躍を見せてくれました。

文化部では、放送部が県高校放送コンテストの各部門で最優秀、優秀を受賞し、全国高校放送コンテストに出場します。囲碁・将棋部は高校総合文化祭県大会で団体優勝、個人準優勝し、全国高文祭に出場します。全国高文祭には、自然科学部、文芸部も出場します。

それぞれとても素晴らしいことです。皆さんの活躍を大変うれしく、そして誇らしく思います。もちろん、これらの表彰を受けたなどの華々しい活躍以外の、それぞれの場所で一生懸命取り組んでいるみなさんの頑張りについても、大変頼もしく思っています。

さて、サッカーワールドカップも最終盤を迎えています。日本代表チームはブラジルに惜しくも敗れましたが、レガシーパッチを付与された長友選手と、2ゴールを決めた鎌田選手、2人の愛媛県出身の選手が、それぞれの役割を大いに発揮され、日本代表のまさに中心的な役割を果たされました。

愛媛県で小学校時代を過ごした鎌田選手は、中学から大阪でJリーグのジュニアユースチームに加入しました。技術やセンスを高く評価されていましたが、ユースチームへの昇格がかなわず、京都の高校に進むことになります。当時、入学前にイヤホンで音楽を聴きながら監督に挨拶したり、初めて部の練習を見学したとき、「結構うまいっすね」などと「上から目線」で感想を言ったり、また、プレー中も、ボールを奪い返そうとするのは、自分が奪わ

れたときだけ、味方がミスした場合は、これは自分のミスではないといった態度を見せたりするということがあったようで、ご本人も「あの学生時代はとんでもない人間だったと思う」と振り返っておられます。

そんな高校時代の鎌田選手に転機が訪れます。試合に出られない3年生がたくさんいる中で出場した1年生のときの高校選手権・京都予選の決勝。鎌田選手は同点ゴールのチャンスを外し、チームは敗退しました。試合後のロッカールームで「責められる」と思っていた彼に、引退する3年生たちはこう言いました。

——「来年はお前が引っ張っていけよ」

その言葉が、彼の心を大きく揺さぶりました。翌日、鎌田選手は自ら頭を丸めて練習に現れます。

そして、チームのことを本気で意識してプレーするようになった鎌田選手は、最上級生になるにあたって、キャプテンに立候補します。

Aチームだった鎌田選手はB・Cチームが朝練を始めたとき、「試合に出ている自分が、出ていない仲間より努力しないのはよくない」と考え、始発電車で学校に向かい、朝練に参加。放課後の練習後も照明が落ちるまで自主練。部の仲間のために走るだけでなく、校内の球技大会では運動が苦手な生徒と一緒に走ったそうです。部の卒団式では、Cチームの保護者の方が、ご自分のお子さんについて、「厳しい練習だったけれど大地君のおかげで最後まで続けられました」と涙ながらに感謝を伝えたとのことでした。

失敗をきっかけに、自分のためだけでなく、仲間のために努力できる人となった鎌田選手が、今や日本代表の中心選手として大活躍している。

非常に感慨深いです。

さて、皆さん自身の1学期は、どうだったでしょうか。「十分でなかったな。」と思う人は、今日から取り組みましょう。未来を変えるには今日を変えるしかありません。未来が変われば、過去に起こった出来事の意味も変わります。少しずつでもいいんです。未来のために、今日から、行動あるのみです。2学期の始業式に、充実感に満ちあふれた皆さんに再会できることを楽しみにしています。

少々遅れても問題はない。スタートするだけだ。必ず走れる。絶対に走りきれる。